

太田生涯学習報

はばたき

■発行 大仙市教育委員会 太田分室

太田分室・太田公民館・生涯学習班・スポーツ振興班・給食センター

(題字：鈴木正吾さん・南今泉)

目次

表紙・・・うたごえ喫茶 in おおたのびのびニュースファイル・・・2ページ
 親子読書・新刊案内・・・3ページ
 太田町史編さんだより・・・4、5ページ
 情報アラカルト・輝人さん・・・6ページ
 俳句・短歌紹介・・・7ページ
 教育随想・太田の子育て・・・8ページ



魅惑の世界をかもし出して



リズムカルに手話にも挑戦しました

♪ はずむ声に笑顔が光る ♪ ～ うたごえ喫茶 in おおた ～

「みんなで歌おう2005うたごえ喫茶 in おおた」が、大仙市や美郷町などから80人の参加者を集め9月25日(日)に太田文化プラザで開催されました。

今回の催しは、企画から実施まですべてボランティアのみなさん(代表小田野幸子さん)の力をあわせて行ったもので、参加者は手作りの歌集からリクエストし、ピアノやバンド演奏(キンちゃんバンド)にあわせて歌いました。

歌集に載っているほとんどの曲が、参加者にとっておなじみのもの。曲が演奏されるたびに全員が声を合わせて歌い、プログラム中盤には曲に合わせた手話や体操も紹介され、動きにとまどい笑顔がこぼれるなど楽しいひとときを過ごしていました。

発 みなみ幼稚園

今年も花いっぱい！

みなみ幼稚園のご近所にお花宅急便も

今、太田みなみ幼稚園は、園庭や道路のプランターなど、周囲がいっぱいの花で包まれています。中でも道路わきの花は、参観日の恒例になつている家族とのふれあい植栽によるもので、おとしは祖父母と、昨年は母親と、そして今年は父親と一緒に植えたものです。

よく見ると、プランターはイラスト入りです。実は、これも家族と一緒に描いたものです。

そんな思い入れのある花のせいか、子どもたちはとてもよく花の世話をします。水やりはもちろんですが、日照り続きや台風の前には、日陰や屋根の下に花を運ぶなど花を大切に守り育てています。

子どもたちの一生懸命さが実を結び、今年も見事な花が咲きそろいました。



いつもお花といっしょ！

その花を真木苑や診療所、歯科診療所にも届けて、(子ども達は「はな宅急便」と呼ぶ。)時々、水やりにも行っています。この花をつうじて、子どもたちも行き交う人や施設の方々から優しい言葉をかけていただき、地域の皆さんとふれあうよい機会となっております。

山形県発

南部忠平杯の思い出から

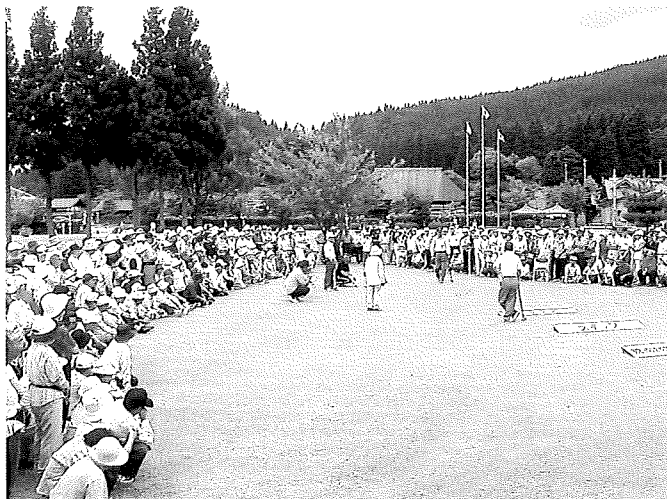
お便りありがとうございます！土田さん

南部忠平先生
に關係のあるグラウンド・ゴルフ大会であることを知り、平成7年の第3回大会から参加をしています。当初は、午前4時半に家を出ての日帰り。施設は現在のように整備されておらず、秋田県外からの

参加者も少なく、参加者は400名位の大会だったと記憶しています。

大会セレモニーは奥羽山荘のすぐ西側会場。副賞が太田町の気のきいた数々の農産物だったこと。車内から横沢曲がりネギの香りが数日抜けず困惑したこと。そしてそのネギが美味かったことが思い出されます。

訪ねる機会ごとに施設は整備され、太田町当局の方針や携っている方々の情熱と努力を知ることができました。大会は充実し、盛大に開催されることは、関係者の皆さんの努力の積重ねであると敬意を表します。



プレーオフも恒例の「南忠杯」

平田町の協会では毎年、百聞は一見に如かずとして、各地のグラウンド・ゴルフ施設に向き一泊二日の研修会を実施しています。太田町には平成9年に来ました。そして今年も10月21日、22日にお邪魔する予定です。

全国に誇れる秋田太田奥羽グラウンド・ゴルフ場が多くのの人々から愛され、喜びをもって訪ねることのできる施設として益々ご発展されることをご祈念申し上げます。

平田町グラウンドゴルフ協会

土田 昭五

親子読書

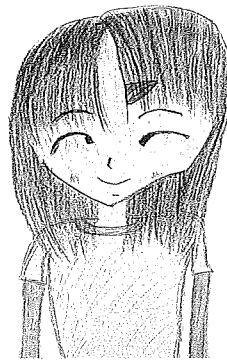
③

この本
だーりすぎ

「赤毛のアン」を読んで

太田東小学校六年

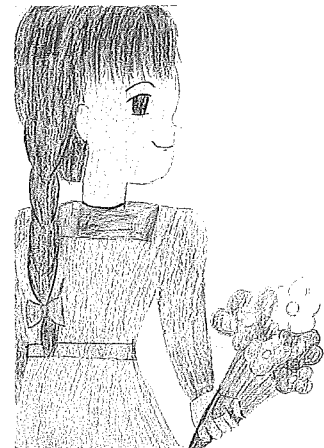
鈴木 裕香



わたしの顔

この物語の主人公アンは、かみの色が赤く、すこくやせていて、物事を空想するのが大好きな少女。アンは、小さい時に両親をなくし孤児院で生活していました。そしてある日アンは、グリーンゲイブルスの家に住んでいるマリラとマシユーに、ひきとってもらえることになりました。マリラとマシユーは、アンを学校に行かせてくれたり、かわいい服も買ってあげたりして、とてもかわいがりました。けれどアンは、色々と事件をおこしてしまいます。不思議にその事件は人々の気持ちをなごませ

裕香さんのイメージしたアン



絵・裕香

「赤毛のアン」は、うちのお母さんも私と同年代の頃に読んでおもしろいと思ったそうです。私からもおすすめの本です。

てくれました。

少女期に読んだこの本を、今回再読して懐かしさと共に強く感じた事がありました。

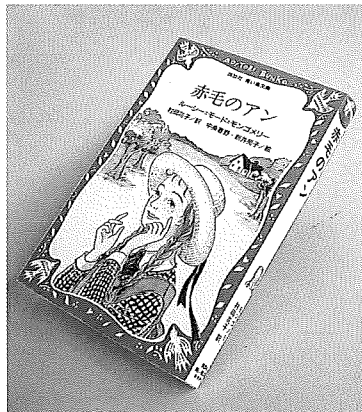
◆ 母、明子

まず、空想する事、想像力のすばらしさです。アンは、生後まもなく両親を亡くし、他人の家で暮らすというつらい日々を、好きな空想の世界を描くことで乗り越えます。また、この想像力は、自分だったら、こんな時どう思うかという相手の身になり考える心を、育ててくれると思うのです。このアンのピュアな空想は、美しい自然の風景と相まって、私の心をなごませてくれました。

太田図書館の新刊

6/20～7/10 購入分から

- がんばれ！秋田内陸線
大穂 耕一郎著
- 菅江真澄と秋田
伊藤 孝博著
- 門屋養安ものがたり
渡部 和男著
- 源 義経 五味 文彦著
- アメリカ・過去と現在の間
古矢 旬著
- もったいない
プラネット・リンク編
- あなたのための小さな物語
①～② 赤木かん子著
- コミュニケーション力
齋藤 孝著
- まじよになりたい 中島和子著
- あらいくんとブタの
ぶたどころさん
なかやまえいこ著



ルーシー・モード・モンゴメリー著 (青い鳥文庫)

「赤毛のアン」

おすすめの本

また、マリラとマシユーのあたたかさに触れ、成長するアンの姿に、家族の大切さを、あらためて考えさせられました。これらは、今の私たちにも大事なことと思います。最後に、裕香、読んでくれてありがとう。皆さんもアンに再会してみませんか。

「どんぐり文庫」が開かれます！

場所は敬愛館、毎月第4土よう日に

「幼児から大人まで本を読んだり勉強したり、学校以外にそんな場所がほしい！」そんな声に応じて、「どんぐり文庫」が開かれています。(第4土曜日の9時30分から午後3時まで)

運営やお世話は、お話ボランティアグループ「いろりの会」のみなさん。お母さんと読む本、小中学生向け、もちろん大人の方への本も準備します。貸出もします。

自由に本を読んだり、お勉強、お絵かき、ぬりえ、折り紙もできます。ぜひおいでください。いい時間が待ってます。

町史編さんだより

大仙市誕生記念「鈴木空如作品展」記念講演から

空如が守り続けたものを未来に

九月十七日から十九日まで、生涯を仏画研究にささげた鈴木空如（小神成出身）の作品展「鈴木空如の信仰と芸術」法隆寺金堂壁画に懸けた人生」が開催されました。今回は講演会も行われるなど、三日間で五〇〇人（講演には百三十人）近い方々の参観があり、作品をとおして空如の功績と人となりを広く伝えることができた展覧会となりました。

不変至宝の

永遠の美を求めて

十九日には、秋田県立近代美術館職員の佐々木直子さん（角間川地区）から「信

仰に生きつづけた仏画家・空如 人と作品」と題してご講演をしていただきました。

佐々木さんは、空如が活躍した当時は「日本画家・洋画家を問わずヨーロッパに留学し、新たな表現方法を学ぶ」ことが一般的であり、また高村光太郎は「個性を表現することが最も尊重

されるべきもの」とし日本人の多くがそのように思っていたと指摘しました。

しかし、空如が生涯尊敬し憧れつづけたのは、「一八〇〇年前の個人を越えた不変的な美と仏教的な美」であり、「信仰に生き、信仰に従って描きつづけ、人びとを惹きつけてやまない不変至宝の永遠の美」を追い求め、清貧に甘んじながらも仏画模写に生涯を懸けたのだと、空如の精神世界を明らか

響き合うふたり

とぶとり
飛鳥の

明日香あすかのあふりか 青丹あおに吉よし

ならのてふりを

今君に見る

この歌は、近代工芸の第一人者・香取秀真（帝室技芸員・東京美術学校教授などを歴任、昭和二十八年（一九五三）には文化勲章を受章）が空如に贈った歌です。

歌は、空如の筆遣いが「法



記念講演会 - 6号壁画について説明する佐々木直子さん -

隆寺金堂壁画描いた仏絵師達の筆遣いを見ているようです」ということを詠っています。

佐藤維一郎（内小友地区、空如のよき理解者）の手記によれば、香取が「法隆寺の古材を薄く短冊型に木取り、それに和歌二首を書いて空

如翁に贈られた」とありま

古の
大きな聖のあと
すなわち君は

現世の聖

この歌で香取は「昔の偉大な聖（仏絵師達）の業績を

思うと、

（仏画の模写をしている）
すなわち君（空如）は現代の聖です
ね」と最高の賛辞を空如に贈りました。

香取もまた中国古代の鑄金技術を研究し、その技術

の高さ美しさに魅せられ、工芸界でヨーロッパの様式を取り入れた作品が大半を占めるなか、中国や日本の「伝統的な美」にこだわり続けた人物でした。

空如が守り続けたもの

佐々木さんは、最後に「不変至宝の永遠の美」を守り続けた空如の精神」は、「これまで長く顕彰し続けた皆さんのなかにも脈々と生き続け、二十一世紀の今も受け継がれている」とされました。

今回の展示会であらためて、空如の作品が人の心を惹きつけたやまないことがわかりました。

大仙市では、これからも鈴木空如を顕彰し、「不変至宝の永遠の美」を追い続け、秋の空のように澄んだ「空如の精神」を未来の子ども達に伝えて行きたいと思えます。



空如の絶筆も展示されました

香取秀真について

香取秀真は、明治七年(一八七四)に現在の千葉県印西市に生まれ、昭和二十九年(一九五四)に亡くなっています。

仏像作成を志し明治二十五年(一八九二)に東京美術学校(一八九七)に卒業します。

その後、明治三十三年(一九〇〇)パリ万国博覧会で銀賞を受賞するなど数々の栄誉に輝きましたが、けっして暮らしては楽なものではありません

でした。

また、香取は歌人としても有名で、正岡子規に弟子入りしています。そして根岸短歌会に参加し活躍しましたが、生活が苦しく一時大好きな短歌をやめてしまっています。

香取の隣りに住んでいた芥川龍之介は、そんな香取を見て再び歌を詠うことを勧めたそうです。

芥川は香取と親交が深く「香取先生は、通称『お隣の先生』である。…僕は先生の隣りに住んだので『形の美しさを』学んだ。…香取先生にはなにかとこやかいになることが多い。ときには叔父を一人持った気になり、甘ったれることがないわけでもない」と述べています。

【参考文献】

佐倉市教育委員会 『佐倉市郷土の先覚者』 平成五年発行

いい話ツコを耳からも

聞き書き「いろりを囲み」が音に

戦争の記憶や地域に伝わる伝承、貧しい中にも豊かさがあったころの話、身近にいながら知らなかった話……。人生の先輩方の話ツコを収録した太田町教育委員会発行の聞き書き集『いろりを囲み』が音声で聞くことができるようになりました。

これは、小学生への読み聞かせや、真木苑でのお話会を行っているボランティアグループ「いろりの会」(代表・佐藤田鶴子さん)のメンバーが朗読し録音してくれたものを、手軽に聞けるカセットテープ・CD・DVDの三種類にしたものです。

「いろりの会」のみなさんの協力で、読む本が



「音の本」として生まれ変わることができました。この音の本を10月下旬から太田図書館(太田公民館内)で貸し出しいたします。くわしくは下記に電話でお問い合わせください。

いろりの会 藤澤ツマ子 (89-1306)

教育委員会太田分室 (88-2881)

※冊子版『いろりを囲み』(A5版395ページ)は1,500円で教育委員会太田分室で頒布しています。

情報アラカルト

参加者はのべ186人 サマー教室を開催

夏休みの6日間「サマー教室」(主催太田公民館)が、公民館と敬愛館で開催されました。

これは夏休み中の子どもたちの勉強の手助けを目的に、太田町等に在任する元教諭のみなさんの協力で今年初めて開催したものです。

国、社、算、理、英の教科に、のべ186人の小中学生が参加し、指導は元教諭、現教諭、教育委員会職員、太田分校生徒、ボラ

ンティアなど22人の方々交代で担当してくれました。

そして、「子どもたちがわかるまで」をモットーにいていねいに教えていただきました。

今回参加した土井大輔君(太田北小6年)は「聞きやすくわかりやすい」と話してくれました。教室は、今後名称を変え長期休業中に開く予定です。



涼しい部屋で思いっきり勉強

頑張り光る 太田中の駅伝

太田中学校駅伝チームは、9月25日(日)開かれた第61回全県駅伝競走大会で大健闘してくれました。



中学校の部には、全県から34チームが出場し、6区間18.5キロのコースに挑みました。

太田中学校は、1時間2分07秒で第10位。また草薮泰裕君(3年)は区間賞を獲得しました。

やってみてわかりました。大変なこと

東小が稲刈り体験

太田東小学校5年生は、9月28日に自分たちが5月に植えた稲の刈り取りをしました。児童のほとんどが初めての体験で、田んぼの所有者の泉芳博(上新興)さん

から、鎌の使い方、稲の束ね方などを教えてもらいながら、昔ながらの、手刈り、ハサ掛けに汗を流しました。「稲を天日干しすることで、お米においしさが増す」との説明

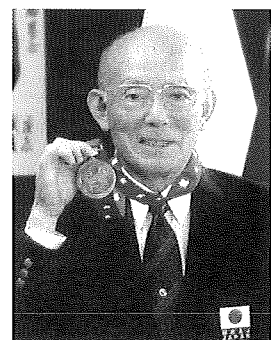
に、手作業の大変さを実感しながらみんな納得の表情でした。「学校に帰ったら、収穫したお米のおいしい食べ方を考えましょう」との先生の言葉に、秋晴れの田んぼを後にしました。



「昔はすべて手刈り」にびっくり

☆わが町の「輝人」さん☆

世界マスターズで「銀」



いとう としみ
伊藤 稔弥さん
茨城県龍ヶ崎市
(太田町駒場出身)

8月にカナダのエドモントで開催された生涯スポーツの世界大会「第6回ワールドマスターズ」で、駒場出身の伊藤稔弥さん(78歳、茨城県龍ヶ崎市)がライフル伏射60発(50m)競技で、みごと準優勝(銀メダル)に輝きました。

伊藤さんは、東京地検に在職中から多くの大会での優勝経験がありましたが、世界大会は初出場。「六百点満点の五百七十六点。射撃は無欲無心の境地が必要で、それには練習を積むしかない。メダルの色ではなく、満点を出したい」と今後に意欲をみせています。

現在、伊藤さんは高校生・大学生への指導もしており、本人は父親から空気銃を買ってもらったのがきっかけで、旧制角館中学(現角館高校)で射撃部に入部し、当時の大会でも優勝。高校生のころから素質はすでにあったようです。それにしてもうれしいニュースです。

田 教 室
俳 句
七月習作選



雨上がり緑したたる風涼し

おそ咲の紫陽花ありて坪冴える

夏草や刈機を弾く石仏

大杉の胴縮上げて藤さかり

うの花に打つ木鉄砲君と僕

紫陽花の季節になりてボス想う

大きめに健康と書く短冊に

不意の風チンと風鈴なりにけり

講師の一句

横綱の名で囚われの甲虫

野中 龍雄

高橋 光

大信田 俊朗

藤原 成雄

田口 栄徳

大信田 江里

進藤 順子

高橋 睦子

浪 夫

路 歌
野 短
七月詠草から

見わたせば自然あふるる青やかさ

花菖蒲はたつぷり雨に恵まれて

透明のガラスの窓をよじ登る

霧雨にかすむ裾野のほととぎす

この時間もつたいなしとあせりつつも

一足飛びに夏となる機運

朝あけの庭におりたち鉢に咲く

農道が舗装されしと伝え聞

久しく乗らぬ自転車を出す

高橋 千世子

高橋 艶子

新田 平八郎

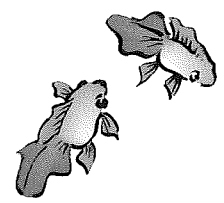
野中 孝雄

藤澤 トミ

藤澤 廣子

藤原 サチ

藤原 ハル子



サークル・さあくる

書道同好会

代表：小松 末子さん
毛筆で字を!そんな若い人が増えています。月2回(第1、3日曜日・午後1時・公民館)指導は嘉扇先生(木元悦子さん)、初心者入会大歓迎です。



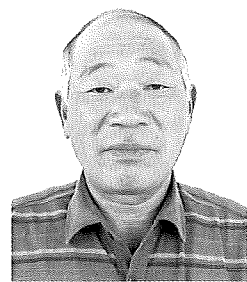
若いカ・パワー!

全国大会へ
大曲農高太田分校
郷土芸能部
7/30～31に青森県五所川原市で開催された全国高等学校総合文化祭に出場。練習の成果をステージに!!

☆わが町の「輝人」さん☆

Vol. 9

「風の子」旋風を!



こまつ くにお
小松 國男さん
(下小曾野)

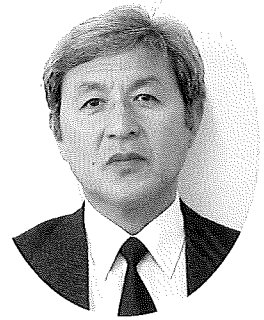
「風の子」は、9年前に結成された陸上・相撲・ドッジボールを楽しむスポーツ少年団です。練習は週三回。子どもたちの頑張りや家族・地域の方々のご協力で今年もドッジボール全国大会に出場することができました。

全国大会は大阪。「風の子」は全県優勝を果たしての出場でしたが、強豪チームが勢ぞろいする中、決勝トーナメントに進出するも、全国という名に圧倒されてしまい激戦のすえ敗退となりました。

子どもたちは、大会ごとに技術と体力、精神面もたくましくなり、それを友とともに感じながら家族や地域への思いやりの気持ちも学んでいると実感します。

これからも子どもたちの笑顔とチームワークを第一に、スポーツを楽しむ子どもたちの支援者でありたいと思います。(「風の子」監督)

孫の育児から思うこと



大仙市太田総合支所
支所長 鈴木 龍一

えております。

乳、幼児期の情操教育はその子の心の成長に大きく関係すると言われている。三歳ぐらいまでは、絵本を読んだり、だっこや添え寝をしたり、親密に過ごす時間を持つことが大切だと思っております。四歳、五歳と発達するにつれて感性が芽生えてくるので、家族の大事な子どもであることを伝えることは、親としての努めとなります。

我が家にも、六月に待望の初孫が誕生しました。息子夫婦が慣れない手つきでお湯を使ったり、おしめを取り替えたり育児に一生懸命です。私たち祖父母は、泣いているときダッコすることで幸せを感じております。私は、「三つ子の魂百まで」のことわざがあるように、三、四歳頃までの育児が非常に大事な時期と考

このように子どもは、いろいろなことに興味・関心を示してきます。それに対して親は、真剣に向き合うことが必要です。そこから、親子の信頼感が生れてくるものだからです。大仙市の子どもたちは勿論、すべての子どもたちが家族の暖かい愛情

をたっぷり受け、心身ともに健康で、たくましく育つことを願っております。

編集後記

仙北市、横手市、にかほ市の誕生。市町村合併で県内の自治体がどんどん変わっていきます。それに伴い、行政の組織も変わります。

大仙市は総合支所方式、美郷町、横手、仙北、にかほ市などは分庁方式。勢い合併により支所を訪れるお客様は確実に減っているようですが、公民館に足を運ぶ人は増加しています。

太田公民館の図書室も合併により図書館と名称だけ(?)が変更になりま

したが、太田を含め、各地域の図書館の利用者が増えることはうれしい限りです。

町の歴史をまとめる仕事を担当していますが、時代は幾多の歴史をつくり、文化を育んできたことがさまざまな史料に残されていることとでわかります。昭和の合併では、新しい村、健康な村を。そして社会資本の整備や働ける場所を。

合併した今、何が求められ、何をしなければいけないのか、考えさせられます。その一つは広義な意味で、「人」を育てる環境の醸成でしょうか？新しい時代であった明治初期のように。
(細川記)

草薨 稔、佐藤 朗、細川良隆



太田の子育て No.106

“読み書きは幼児から？”
立てば読め？ 読めば教えろ？

■ある学習教材社の広告文

「幼児は盛んな知識欲をもっている。その意欲を利用して文字を教えるとどんどん理解してゆく。小学校に入って教えるよりもはるかに理解が早い。文字を知り、文を読む力が育てば本が好きになり、考える力も発達し、豊かな情操作りに大いに役立つ。」これは、ある学習教材社の広告の要約である。

この広告文は、もっともな気もするが、そのままのみにすると大変危険な迷信を生みやすい。

■なぜあえて文字や数だけなのか？

幼児期は好奇心が盛んだが、その方向はさまざま。文字に興味を向ける子がいても、それと同じ程度以上に、他のことにも興味を向けているはず。水遊びや砂遊びよりも、文字や数を覚えることが好きという子は極めて少数なはず。ほとんどの子の好奇心は八方に向けられている。

そういう八方に向かう好奇心の中で、なぜ文字や数だけが大切であろうか？

■早く教えるとはるかに理解が早い？

文字や数の知識は、スタートが一年くらい遅くても、すぐに追いついてしまうし、一年早く文字や数を教えられなかったことで学力に響いたと後悔している人が実際にいるのだろうか？まして思考力や情操まで発達が遅れたと考えている人がいるのだろうか？

■危険な早期教育論

必ずしも早期教育論を否定はできない。例えば世界的なバイオリニストは、幼児期から教えられて育っていてもいる。

しかし、文字や数を教えることは、それとっしょだろうか？むしろ、こういう主張を短絡的に受け取った親が、わが子の興味を無視して「立てば読め、読めば数える」とやり出したらどうなるのか？人間3歳にして落ちこぼれだらけ……。早期教育論は、うっかり読むところなのである。



楽しかった収穫 (8/29・ひがし幼稚園)